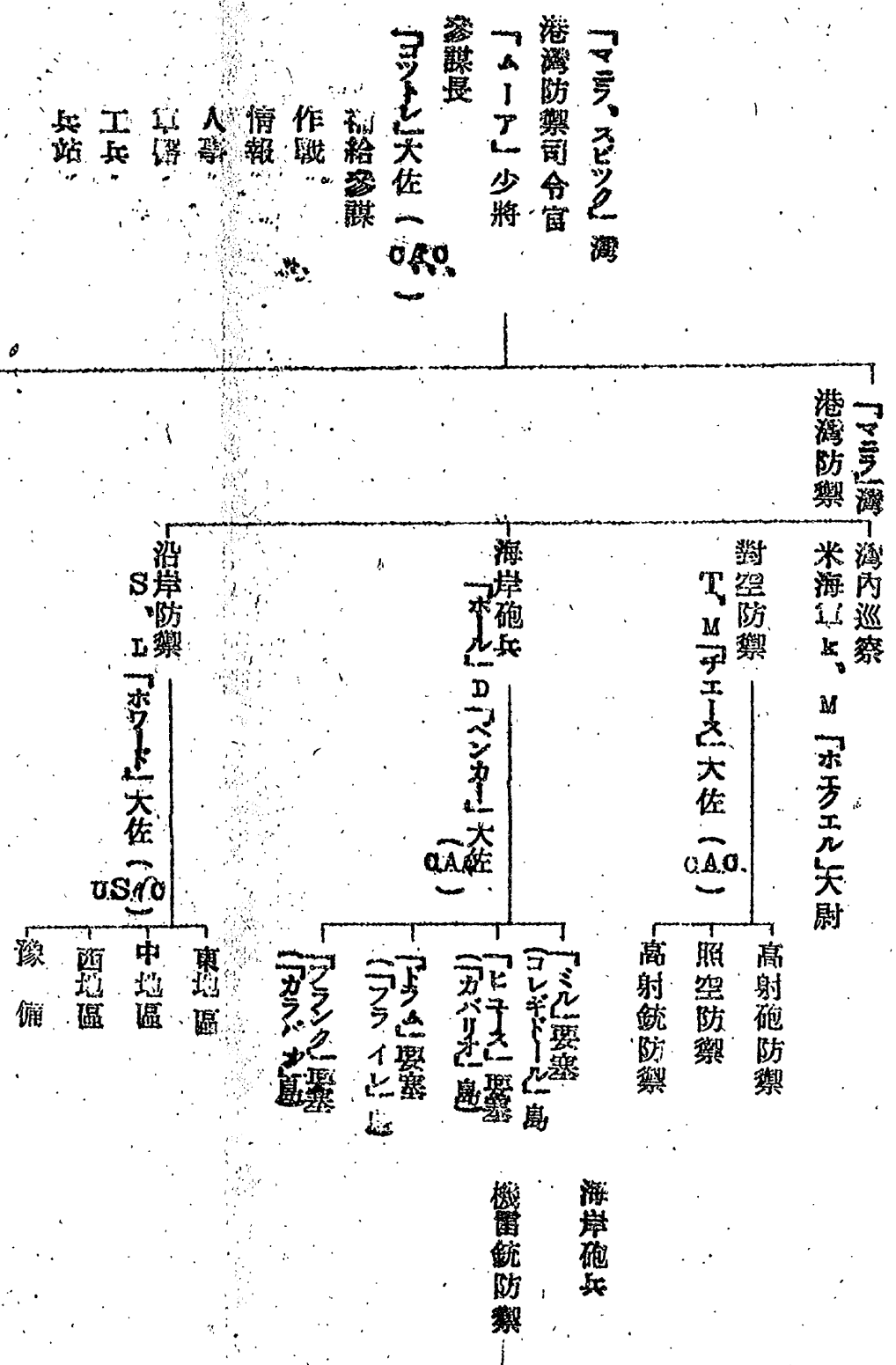


比
島
作
戦
記
録
附
表
・
附
録
・
一
部

和 昭
田 和
中 二
佐 四
四

0994

「マニラ、スピック」 灣港灣防禦部署ノ概況表
一系統



0995

三海岸砲兵部署及兵力

部隊		區分		人員		主要裝備		防禦位置	
				將校	下士官				
海岸砲兵 第五十九部隊	本部及本部中隊	第一大隊本部及本部中隊	本部及本部中隊	14	128			「ミ」要塞	「ミ」要塞
		A 中隊	1.2吋砲	4	90	1.2吋砲	「ハ」砲台		
		B 中隊	1.2吋砲	4	90	1.2吋砲	「ク」砲台		
		F 中隊	1.2吋砲	4	90	1.2吋砲	「ス」砲台		
		第二大隊本部及本部中隊		2	54				「ド」要塞
		G 中隊	1.2吋砲	4	90	1.2吋砲	「ロ」砲台		
		D 中隊	1.2吋砲	4	90	1.2吋砲	「エ」砲台		
		(配屬部隊含)	1.4吋砲	3	85	1.4吋砲	「ド」要塞		
		第三大隊本部		2	28				「ド」要塞
		G 中隊	1.4吋砲	3	85	1.4吋砲	「ウ」砲台		
海岸砲兵 第六十部隊 (高射砲)	本部及本部中隊	第一大隊本部及本部中隊	本部及本部中隊	22	200			「ミ」要塞	
		A 中隊	探照機 探照機 一〇〇	5	120				
		B 中隊	対高射砲四	4	105				
		O 中隊	全右	4	105				
		D 中隊	全右	4	105				
		第三大隊本部及本部中隊		3	35				「ハ」半島
		K 中隊	海岸探照燈 若干	4	100				
		I 中隊	3吋高射砲四	4	91				
		H 中隊	1.2吋榴彈砲八	3	85				
		G 中隊	1.4吋砲	3	85				

0997

海岸砲兵 第九十二部隊							海岸砲兵 第九十一部隊																
F	E	D	C	B	A	本部及本部中隊	G	F	E	D	C	B	A	本部及本部中隊	M	L	K	I	第三大隊本部及本部中隊	H	G	F	E
中隊	中隊	中隊	中隊	中隊	中隊	12	中隊	中隊	中隊	中隊	中隊	中隊	中隊	中隊	中隊	中隊	中隊	中隊	3	中隊	中隊	中隊	中隊
4	4	2	4		4	48	6	4	4	4	4	4	6	15	4	4	4	4	3	4	4	4	4
75	75	23	75		75	48	90	80	85	85	80	80	90	150	111	111	111	111	35	110	110	110	110
155 耗砲 四	155 耗砲 四	75 耗砲 四	155 耗砲 二	155 耗砲	75 耗砲 一〇 沿岸防禦		機雷	12吋榴彈砲	12吋榴彈砲	3吋高射砲 四	155 耗砲 四	6吋榴彈砲 二	155 耗砲 二	155 耗砲 二	全	全	全	50 耗機銃 二	全	全	全	3吋高射砲 四	探照機 一〇〇
	「オドナス」砲台	沿岸防禦	「キーン」砲台		「ミル」要塞		「ミル」要塞				「サンセット」砲台	「フランシ」砲台	「ロック」砲台	「ミル」要塞	「ミル」要塞				全	「ミル」要塞		「ミル」要塞	
「フランシ」砲台		55 耗砲 一〇 牛島ヨリ	「バタン」砲台					「フランシ」砲台	「エル」砲台	「フランシ」砲台				「バタン」砲台							「バタン」砲台		「バタン」砲台

海岸砲兵 第二部隊	海岸砲兵 第一部隊					
	D 中隊	C 中隊	B 中隊	A 中隊	本部及本部中隊	G 中隊
8	3	4	4	2	4	
200	65	95	95	48	76	
	355 耗砲 三	3 吋砲 四	3 吋砲 二	155 耗砲 二	3 吋砲 四	155 耗砲
將校五下士兵 一三〇ハ 一部隊ニ轉用 要務	「ハミルトン」砲	「シエクス」砲	「ハナ」砲	「サンセット」砲 生部	「マックスウェル」砲 「クイン」砲 「サンセット」砲	「モン」砲
		此ノ砲兵ハ 分遣隊ヲ供 給セリ				「バタアン」半島ヨリ 歸ラス

備
一 第五十九部隊。及第六十部隊人員數ハ概數ナリ兩部隊共其ノ
約六%ハ入院中

院中
一 バタアン半島ヨリ遁入セル第一二沿岸砲隊ノ残存兵力
ハ第九十一部隊ノ補強ニ用ヒラレタリ

考
一 海岸砲兵第一部隊ハ死傷及置換用ノ豫備隊（海岸砲兵）トシ
テ將校五名下士兵一七九名ヲ有セリ

二 海岸砲兵第二部隊D中隊ハ死傷及「フランク」要基豫備隊ト
シテノミ使用セラレル外ニ將校五名下士官一三〇名ヲ豫備隊
トシテ有セリ（海岸砲兵）ハ死傷ノ爲豫備隊ヲ補充スハク要
求セラル

四 沿岸防禦部署及兵力

1 兵力

計	砲 兵	陸 軍 兵 隊 員	海 軍 兵 隊 員	海 軍 兵 隊 員 (青シヤツ)	第 四 米 軍 陸 戰 隊	將 校	下 士 官 兵	總 計
二〇三	六	二六	二四	二五	二二二	二二二	三三二	三六九八
三四九五	二四〇	九〇三	三七五	六二七	三三二			

備考	總隊	西地區	中地區	東地區	地區
將校以上(以下ノ額ヲ人員ノ合計ナリ) A 將校 看護婦及海尉(海軍) B 海軍將校 C 陸軍將校 D 北島人將校		アンタムス 中佐 間	隊長 アンタムス 中佐 間	隊長 米軍陸戦隊 アンタムス 中佐 間	隊長 擔當地區
		「マリンター」丘ヨリ「モ 「ライオン」丘(含ム)ト「ガ 「バロン」丘(含ム)ト「ラ 「ラメント」線ニ至ル間	「マリンター」丘ヨリ「モ 「ライオン」丘(含ム)ト「ガ 「バロン」丘(含ム)ト「ラ 「ラメント」線ニ至ル間	「マリンター」丘ヨリ「モ 「ライオン」丘(含ム)ト「ガ 「バロン」丘(含ム)ト「ラ 「ラメント」線ニ至ル間	
	25	42	37	33	將校
		324	490	367	下士兵
	268	3	3	6	海軍
		143	121	106	陸軍
	8	9	10	11	他兵
		346	384	523	小計
183	2	2	2	計總	
	70	90	80		
38	56	52	62		
451	883	1,085	1,076		
484	939	1,137	1,138		

五 「コレギドール」島ニ於ケル戦斗部隊ノ兵力（人員）

將校	、二三九	海岸砲兵	、二〇三	小計	四四二
下士官兵	四、〇三四	沿岸防禦	三、四九五	小計	七、五二九
總計	四、二七三		三、六九八	小計	七、九七一
				總計	七、九七一

分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	<table border="1" data-bbox="651 680 1251 875"><tr><td data-bbox="667 703 858 853">1</td><td data-bbox="858 703 1050 853">2</td><td data-bbox="1050 703 1241 853">3</td></tr></table>	1	2	3
1	2	3		
分割撮影した理由	A 3版以上のため			
文書等名	「コレギドール」島の諸砲台及沿岸防禦砲兵損害概況一覽表			
上記のとおり分割撮影したことを証明する。				

附表第九

コレギードール島ノ諸砲台及沿岸防禦砲台損害概況一覽表
(陣代當時海岸防禦指揮官ノ報告ニ依ル)

1004
1005
1006

1. 砲台

砲台	火砲	射界	射程	損害概況
(1) スミス砲台	12吋バーベツト砲一門 (30K)	360°	29,000ヤード	砲身損害甚大基ヲシテ主要砲眼ハ破損セラルコトハサーブスピードギヤノ破損ヲ以テ砲尾モ夫損傷受ケリ砲身直線操作アルニ相対規模ノ修繕ノ必要ニシテ砲身ハ砲身隊兵員ニシテナシトシテ動力装置損害甚大ニシ
(2) ビーコ砲台	12吋砲一門	360°	29,000ヤード	砲身損害甚大右側砲座ハ爆撃ニ依リ破損セラルコトハサーブスピードギヤノ破損セラル砲尾破損セラル砲身直線操作アルニ相対規模ノ修繕ノ必要ニシテ砲身ハ砲身隊兵員ニシテナシトシテ動力装置損害甚大ニシ
(3) ロケット砲台	12吋砲二門	300° ~ 65° (概略)	17,000ヤード	第一砲台ハ砲身ニ依リ使用不能トナリ至リ修理不能ニシテ砲身ハ砲身隊兵員ニシテナシトシテ動力装置損害甚大ニシ
(4) ホイラー砲台	12吋砲二門	120° ~ 180° 概略	17,000ヤード	空爆ニ依リ第一砲台ハ砲身ニ依リ使用不能トナリ至リ修理不能ニシテ砲身ハ砲身隊兵員ニシテナシトシテ動力装置損害甚大ニシ
(5) チェネ砲台	12吋砲二門	120° ~ 180° 概略	17,000ヤード	第一砲台ハ砲身ニ依リ使用不能トナリ至リ修理不能ニシテ砲身ハ砲身隊兵員ニシテナシトシテ動力装置損害甚大ニシ
(6) グローリー砲台	12吋砲八門 (30H)	360°	14,000ヤード	凡テ砲台動力装置及操作機械ハ日本軍砲臺ニ依リ爆撃ニ依リ破損セラル
(7) ウェー砲台	12吋砲四門	360°	14,000ヤード	砲台ハ日本軍砲臺ニ依リ使用不能トナリ至リ修理不能ニシテ砲身ハ砲身隊兵員ニシテナシトシテ動力装置損害甚大ニシ
(8) グラス砲台	10吋砲二門 (25K)	120° ~ 180° 概略	13,500ヤード	第一砲台ハ砲身ニ依リ使用不能トナリ至リ修理不能ニシテ砲身ハ砲身隊兵員ニシテナシトシテ動力装置損害甚大ニシ
(9) モリソン砲台	6吋砲二門 (15K)	120° ~ 180° 概略	14,000ヤード	有ル砲臺日本軍砲臺ニ依リ完全ニ二門共破損セラル動力装置ハ多少修理ニ依リ使用不能トナリ
(10) ジェームズ砲台	3吋山砲四門 (75BA)	120° ~ 180° 概略	10,000ヤード	此等砲台全部日本軍砲臺ニ依リ破損セラル
(11) バンツ砲台	3吋山砲二門	120° ~ 180° 概略	10,000ヤード	二門共日本軍砲臺ニ依リ破損セラル
(12) シンツ砲台	3吋山砲二門	120° ~ 180° 概略	10,000ヤード	砲台ハ砲身ニ依リ使用不能トナリ至リ修理不能ニシテ砲身ハ砲身隊兵員ニシテナシトシテ動力装置損害甚大ニシ
(13) ラムセ砲台	6吋砲三門 (15K)	120° ~ 180° 概略	14,000ヤード	第一砲台ハ砲身ニ依リ使用不能トナリ至リ修理不能ニシテ砲身ハ砲身隊兵員ニシテナシトシテ動力装置損害甚大ニシ
(14) ロックン砲台	155糎砲一門	120° ~ 180° 概略	17,000ヤード	日本軍砲臺ニ依リ砲身ニシテ損害受ケリ其後砲身完碎ス
(15) シンツ砲台	155糎砲四門	120° ~ 180° 概略	17,000ヤード	第一砲台ハ砲身ニ依リ使用不能トナリ至リ修理不能ニシテ砲身ハ砲身隊兵員ニシテナシトシテ動力装置損害甚大ニシ
(16) キーコ砲台	155糎砲一門	120° ~ 180° 概略	17,000ヤード	此砲ハ日本軍砲臺ニ依リ完碎セラル砲身ハ何等損害ヲ加ヘス
(17) キーコ砲台	155糎砲二門	120° ~ 180° 概略	17,000ヤード	砲身損害ニシテ容易ニ使用シ得
(18) モーニ砲台	155糎砲二門	120° ~ 180° 概略	17,000ヤード	砲身及砲身直線操作アルニ相対規模ノ修繕ノ必要ニシテ砲身ハ砲身隊兵員ニシテナシトシテ動力装置損害甚大ニシ
(19) マックス砲台	3吋山砲三門	120° ~ 180° 概略	10,000ヤード	砲身ハ砲身直線操作アルニ相対規模ノ修繕ノ必要ニシテ砲身ハ砲身隊兵員ニシテナシトシテ動力装置損害甚大ニシ
(20) ロケット砲台	155糎砲一門	120° ~ 180° 概略	17,000ヤード	砲身損害甚少凡テ日本軍砲臺ニ依リ
(21) ハミルトン砲台	155糎砲三門	120° ~ 180° 概略	17,000ヤード	砲身及砲身直線操作アルニ相対規模ノ修繕ノ必要ニシテ砲身ハ砲身隊兵員ニシテナシトシテ動力装置損害甚大ニシ
(22) シンツ砲台	155糎砲一門	120° ~ 180° 概略	17,000ヤード	砲身ハ砲身直線操作アルニ相対規模ノ修繕ノ必要ニシテ砲身ハ砲身隊兵員ニシテナシトシテ動力装置損害甚大ニシ
(23) ローズ砲台	155糎砲一門	120° ~ 180° 概略	17,000ヤード	此砲ハ日本軍砲臺ニ依リ完碎セラル
(24) シンツ砲台	155糎砲三門	120° ~ 180° 概略	17,000ヤード	砲身及砲身直線操作アルニ相対規模ノ修繕ノ必要ニシテ砲身ハ砲身隊兵員ニシテナシトシテ動力装置損害甚大ニシ

(23)	ロース7 砲台	155糎砲 一門	カマヘン 50°右 50°左 カマヘン 50°右 カマヘン 50°左 100°迄	17,000 Lx-T	此砲ハ日本軍ニ既直前ニ移動セリ新位置ニ報告ハ未到者損害報告ナシ
(24)	ロース7 砲台	155糎砲 二門	カマヘン 50°右 カマヘン 50°左	17,000 Lx-T	砲手ニ依リ完全ニ爆碎セラル
(25)	ロース7 砲台	155糎砲 二門	第一砲 カマヘン 50°右 カマヘン 50°左 カマヘン 50°右 カマヘン 50°左 100°迄	17,000 Lx-T	第一砲ハ砲座ニ大破セラルニ依リ砲手ニ依リ完碎セラル砲座ニ 第二砲ハ砲座ニ日本軍砲座及爆薬ニ依リ完全ニ爆碎セラル砲 管ハ好調視ル
(26)	無名砲台	ハイバット砲 車、8吋列車 砲二門	不明	25,000 Lx-T	予備射撃口ノ砲座ニ依リ完全ニ爆碎セラル修理不能

注
1.方位角ハ凡テ度ニ示ス真角ヲ度トシ設計ノノ數ヲ射界記載法ヲ変ヘテ非テ左眼界列先ツ記シテアリ
2.新式砲管ハ12吋ハ「ホラー」ハ「ワン(ゼラン)」各砲台ニアリ合計新砲管ハ12吋三ノリ6吋新式砲管ハ
ロムセ一砲台ニアリ
3.損害概算ハ觀察ノ結果ニテ詳ク技術的觀察非ス凡テ、砲ハ完全ニ動かシ得ズ射撃スルハ尖技専門員ニ
依リ承認セラル此ノ危険アリ誤考セラル

2 沿岸防禦砲台

位置	大砲	損害ノ概況
(27) ホラー岬	75糎砲 一門	砲座行方不明砲座ニ依リ使用不能
(28) ホラー岬西方 200ヤード	3吋砲 一門	砲手ニ依リ爆碎セラル砲座ニ依リ使用不能
(29) プレズール	75糎砲 一門	位置ヲ踏査シ得ズ不明
(30) 上部ロムセ岬	75糎砲 一門	後座車輪破壊 使用不能
(31) 下部ロムセ岬	75糎砲 一門	損害少シ修理ニ依リ使用可能
(32) プレズール岬	75糎砲 二門	砲座行方不明砲座ニ依リ損害及爆薬及射撃口ニ依リ使用不能
(33) ロムセ岬	75糎砲 一門	損害少シ使用可能
(34) コンセプション岬	75糎砲 一門	砲座及砲手ニ依リ損害ニ依リ使用不能
(35) スパイン要塞 スパニッシュフォード	75糎砲 一門	砲座及砲手ニ依リ損害ヲ受ク砲座ニ依リ使用不能
(36) ストウケード岬	75糎砲 一門	砲座行方不明其他損害少シ使用不能
(37) サルード岬	75糎砲 一門	砲座ニ依リ損害ヲ受ク使用不能
(38) CR # 73	75糎砲 一門	砲座行方不明其他損害少シ使用不能
(39) 南部海岸通	3吋砲 一門	砲座ニ依リ損害使用不能
(40) マリントン岬東部	75糎砲 二門	爆薬ニ依リ北部砲座破壊セラル砲座及砲手ニ依リ南部砲座損害 甚ク使用不能
(41) マリントン岬西部	75糎砲 一門	砲座及砲手ニ依リ損害使用不能
(42)	トシネル砲	損害少シ使用可能
(43) L-ス岬	75糎砲 二門	二門共砲座ニ依リ破壊使用不能
(44) L-ス岬西部 100ヤード	75糎砲 一門	同上
(45) レンヌ岬	75糎砲 一門	砲座行方不明 使用不能
(46) フッカー岬	75糎砲 二門	損害少シ使用可能
(47) コルバーシ岬	3 16r(?) 一門	砲座ニ依リ損害甚大 使用不能
(48) マリントン岬	3 16r 一門	砲座射撃ニ依リ損害ヲ受ク使用不能
(49) 92自動車庫地	3 16r 一門	砲ヲ発見シ得ズ不明

第十 重砲兵隊「コレギドール」要塞攻略計畫ノ大綱

第一 方針

一 上陸戰鬥開始前重砲兵ノ火力ヲ統一シテ徹底セル破壊震駭射撃ヲ行ヒ
次テ集中火力ヲ逐次西方ニ移動シ第一線ニ直接協同ス

第二 陣地及射撃諸準備並ニ彈藥集積

二 重砲兵隊ノ陣地ハ概ネ現態勢ノ儘トシ攻撃準備射撃開始前其ノ一部ヲ
變換ス

三 重砲兵隊主力ハ極力射撃準備ノ強化ヲ圖リ^{22A} 及⁴ A(白砲ヲ屬ス)ハ四

月二十八日夕迄ニ之ヲ完了ス

四 彈藥使用ノ標準左表ノ如ク各隊ハ概ネ其ノ三分ノ二ヲ陣地及后方地區

ニ集積ス

彈藥使用標準表						
種	門	類	以 擊 準 備 間	以 擊 準 備 射 擊	上 部 後	豫 備
24H 45式	8	17.0	5.0	7.0	3.0	2.0
24H 96式	1	20.0	5.0	7.0	3.0	5.0
15H 90式	2	8.0	1.0	4.0	2.0	1.0
15H 87式	8	23.0	3.5	7.0	4.5	11.0
15H	24	17.0	4.0	7.0	4.5	2.0
10K	12	21.5	4.0	7.0	4.5	6.0
10H	12	10	1.5	3.0	3.3	0
A		総10 個23	1.5	5.0	3.5	0
				1.0	1.0	0.3
摘要						

第三 攻撃準備期

自四月廿一日
至五月一日

五要旨

- 1 自主的ニ行フモノノ外勉メテ砲戦ヲ避ク
各隊ノ臨機ノ對砲兵戦ノ任務及其ノ戦斗區域ハ従前ノ如キモ其ノ射撃
開始ハ軍砲兵司令官ノ命令ニ依ル
- 2 四月二十九日以後ノ4Aノ射撃ヲ區處ス

六射撃目標及目的

敵砲兵(A)ヲ含ム一ヲ撲滅スルト共ニ重要施設ヲ破壊燒夷シ且敵ノ宿營
地等ヲ急襲的ニ震駭又ハ擾亂シテ其ノ抗戦意志ヲ淋痺セシム此ノ間射撃
ニ敵遊動火砲ノ撲滅ニ勉メ又二十九日⁴A及²²Aハ完全ニ不中隊ノ彈丸ヲ
掌握セシム

七 射撃要領左表ノ如シ

5		4									
日	時刻	射撃部隊	射撃目標及主目的	所射敵機							
1	夜	(32A)(4A) (300)(300)	(イ)ニ今シ △島頭	2基 (A, 白)							
30	夜	(32A)(4A) (300)(300)	(イ)ニ今シ △島頭	2基 (A, 白)							
29	夜	0800 1000 1030 1130	(イ)破機ノ射撃及其ノ掩護 △島頭	1, 5基							
28	夜	1SA (60)		3, 5基 (A, 白)							
27	夜	8SA (60)									
26	夜	1SA (50) RFAs (30)	(イ)ニ今シ	△島頭ノ南面ヲ 適時制正セン							
25	夜	1SA (50) RFAs (30)									
24	夜	主カ	砲兵ノ撲滅及防禦施設ノ破機	1, 5基							
23	夜	8SA (60)		面ヨリ「コレ							
22	夜	1SA (50)		ゴンドン「方							
21	夜	RFAs (30)	宿營地ノ急襲擾亂及防禦作業妨害 自標ノ選定ハ臨機ノ對他兵戦闘 區域内トス	2/8SA ハ「マラ							
20	夜										

第四 攻撃準備射撃（自五月二日
至五月五日）

八要旨

1 全砲兵ヲ以テ徹底セル破壊射撃ヲ行ヒ末期ニ於テ集中射撃ニ依ル震撼射撃ヲ實施ス此ノ間上陸時機及地點ノ欺騙ヲ兼テ直接支援射撃ノ豫行訓練ヲ行フ

2 4A ノ射撃ヲ統一指揮ス

3 砲撃ヲ協調セシム

九射撃目標及目的

- 1 「コレギドール」島及「カバルロー」島ノ殘存敵砲兵（AAヲ含ム）及探照燈ヲ破壊スルト共ニ防禦施設特ニ「ロツク」岬、「ノース」岬間ノ近戦火砲側防機能、特火點、障礙物ヲ破壊ス
- 2 末期突撃支援初期ノ射撃ニ準シ敵陣地ノ要點ヲ壓倒震撼シ特ニ森林内ノ確認シ得サル敵ヲ撲滅ス
- 3 此ノ間上陸時機及地點ヲ欺騙スル目的ヲ夜間急襲的ノ震撼射撃ヲ行ヒ

且欺騙ヲ兼ネテ支援射撃ノ豫行ヲ實施ス
射撃要領左表ノ如シ

備考	5/5	4/5	3/5	2/5	月日	時刻	射撃部隊	射撃目標及主目的	内訳	薬計
	x	(x-1)	(x-2)	(x-3)						
(ホ)ノ射撃豫行ニハ舟艇ヨリノ通信ヲ實施ス	0900 ↓ 1100 ↓ 1800 ↓ 1900	0900 ↓ 1100 ↓ 1500 ↓ 1900	0800 ↓ 1100 ↓ 2200 ↓ 2300	1500 ↓ 1900						
	(イ) 直接支援目標ノ壓制射撃一基数 (ロ) 甲上陸隊ノ制壓(兼豫行)〇、五基数	(イ) 直接支援目標ノ壓制射撃一基数 (ロ) 第一、第二日ノ射撃效力ノ補強 計一、五基数	(イ) 甲、乙上陸支援隊行(兼欺騙)射撃〇、 五基数 (ロ) 欺騙(兼擾亂及豫行)射撃〇、 五基数	全兵力 (イ) 欺騙(兼擾亂及豫行)射撃〇、 五基数 3 A 及白砲ハ制限ス 一基数 計一、三基数	(イ) 上陸戦斗ニ直接關係ヲ有スル目標ノ破壊 1 十榴以上ノ各中隊目標平均三ヶ計六十 三ヶ 2 平均所墜弾數 一基数 3 計一、三基数 十榴以上					
	1, 5基	2, 0基	1, 5基 A	3, 5基						
		7, 0基 (DA, 5, 0基)								

要旨

1 全カヲ以テ上陸部隊ノ行動ニ緊密ニ連繫シテ單純確實ナル直接支援ノ集中射撃ヲ行ヒ適時一部ヲ以テ「カバルロー」島ノ砲兵ヲ制壓ス

又此ノ間海上航進ヲ掩護ス

2 4Aノ射撃ヲ統一指揮ス

十一 射撃要領

1 第一次（X日夜）

(イ) X日夜甲上陸部隊出發后一部ヲ以テ敵ノ探照燈及活動砲兵ヲ制壓シ

航進ヲ秘匿又ハ支援ス

(ロ) 舟艇群海岸ヨリ幾ネ三軒以内ニ進入スル時秘キリ概ネ一軒ノ線ニ進

入スル迄主火力ヲ以テ「インフアンテリ」岬以東ノ海岸ヲ集中射

撃ニ依リ急襲シ敵ヲ震駭スルト共ニ適時目濱ヲ行ヒ舟艇ノ近迫ヲ掩

護ス之カ爲信號ニ依リ射撃ヲ開始シ急速度ヲ以テ十五分間射撃ヲ繼

- 繪スルモノトシテスレバ信號ニ依リ直ニ射撃ヲ中止セシム一航進約
 十軒ト豫テス一又此ノ間一部ノ火力ヲ以テ后方地區及「マリ
 ンター」高地附近ニ對シ稍々綏徐ナルナル制壓ヲ繼續ス
- (ハ)舟艇群上陸點ニ達着セバ信號ニ依リ后方地區ニ對スル射撃ヲ中止シ
 「マリンター」高地附近ノ制壓射撃ノミ依然繼續ス
- (ニ)「マリンター」高地ニ向ヒ前進スル時發ニ至ラバ信號ニ依リ全高地附
 近ノ射撃ヲ中止ス此ノ際要スレバ左半部ノ射撃ヲ先ツ中止ス
- (ホ)「コレギドール」島頭部ニ對シテハ一部火力ヲ以テ主トシテ宿營地
 ヲ襲撃擾亂シテ該方面ニ敵ヲ牽制ス又「マラゴンドン」ノ十加中隊
 ヲシテ「コレギドール」島頭部南側ヲ制壓セシム
- (ロ)前記各別撃ハ擔任部隊ヲ指定シテ勉メテ一目標ニ制限シメ日晝間企
 圖ヲ秘匿シツツ豫メ射撃ヲ掌握セシメ諸元ノ變換ニ依ル火力ノ移動
 ハ勉メテ之ヲ避ク
- (ハ)信號ハ第一回上陸部隊ト全行スル前進觀測群ハ各隊毎ノ連絡及觀測

機關ヲ集成セル約六十名ヨリ成リ連絡艇ニヲ屬ス一長ヲシテ之ヲ實

施セシメ最モ確實ニシテ企圖ヲ秘匿シ得ヘキ方法ヲ以テス

(イ) 前進觀測群ハ成ルハク速カニ「マリンター」高地ニ進出ス

(ロ) 別ニ一部ヲ以テ豫メ「サンホセ」西側台上ニ制壓射撃ヲ準備ス

(ハ) 使用彈藥ハ平均概ネ一、五基数トス

2 第二次(十日晝間)

(イ) 十日拂曉以後左ノ要領ニ依リ甲上陸部隊ノ戰鬥ニ協同ス

A 所要ノ火力ヲ以テ「サンホセ」高地ノ敵ヲ制壓ス

B 要スレバ「モリソン」高地「ブレイク」高地附近ヲ制壓又ハ目潰

ス

O 有力ナル一部ヲ以テ「カバルロー」島ノ敵砲兵ヲ制壓ス

D 狀況ニ依リ晝間攻撃ヲ續行スルトキハ全力ヲ以テ「コレギドール」

島頭部ヲ制壓ス

(ロ) 乙上陸部隊ノ爲「ロツク」岬「コレギドール」灣ニ亘ル海岸及「ロ

ツク一高地「トウ」高地（病院高地）「モリソン」高地「サンホセ」
高地ノ敵陣地中所要ノモノヲ破壊ス之ガ爲所要ノ機測ハ前進機測
之ニ任ス

(ハ)夕刻乙上陸部隊支援射撃點檢ノ爲各隊ノ基準砲車ヲ以テ各隊毎ニ海
岸及后方線ニ對シ射撃ヲ實施ス

(ニ)使用豫定彈藥平均概ネ一、五基数（一、一基数）

3 第三次（11日夜）

(イ)日薄暮有力ナル一部ヲ以テ甲上陸部隊ノ「サンホセ」高地ニ對ス
ル攻撃ニ協同シ且該方面ニ敵ヲ牽制ス之ガ爲「サンホセ」高地下台
ニ次テ全高地上台ニ火力ヲ集中スルト共ニ「モリソン」高地及「ブ
レック」高地東端附近ニ煙幕射撃ヲ行フ

(ロ)乙上陸部隊ノマ接ハ甲上陸部隊ノ支援ニ準ス進シ支援ノ第一線（海
岸線）第二線（「グラブス」砲台）「モリソン」山頂ノ線（第三線）
（概ネ400ノ水平曲線ノ線）ヲ今時ニ制艦シ逐次近方位ヨリ射撃ヲ中

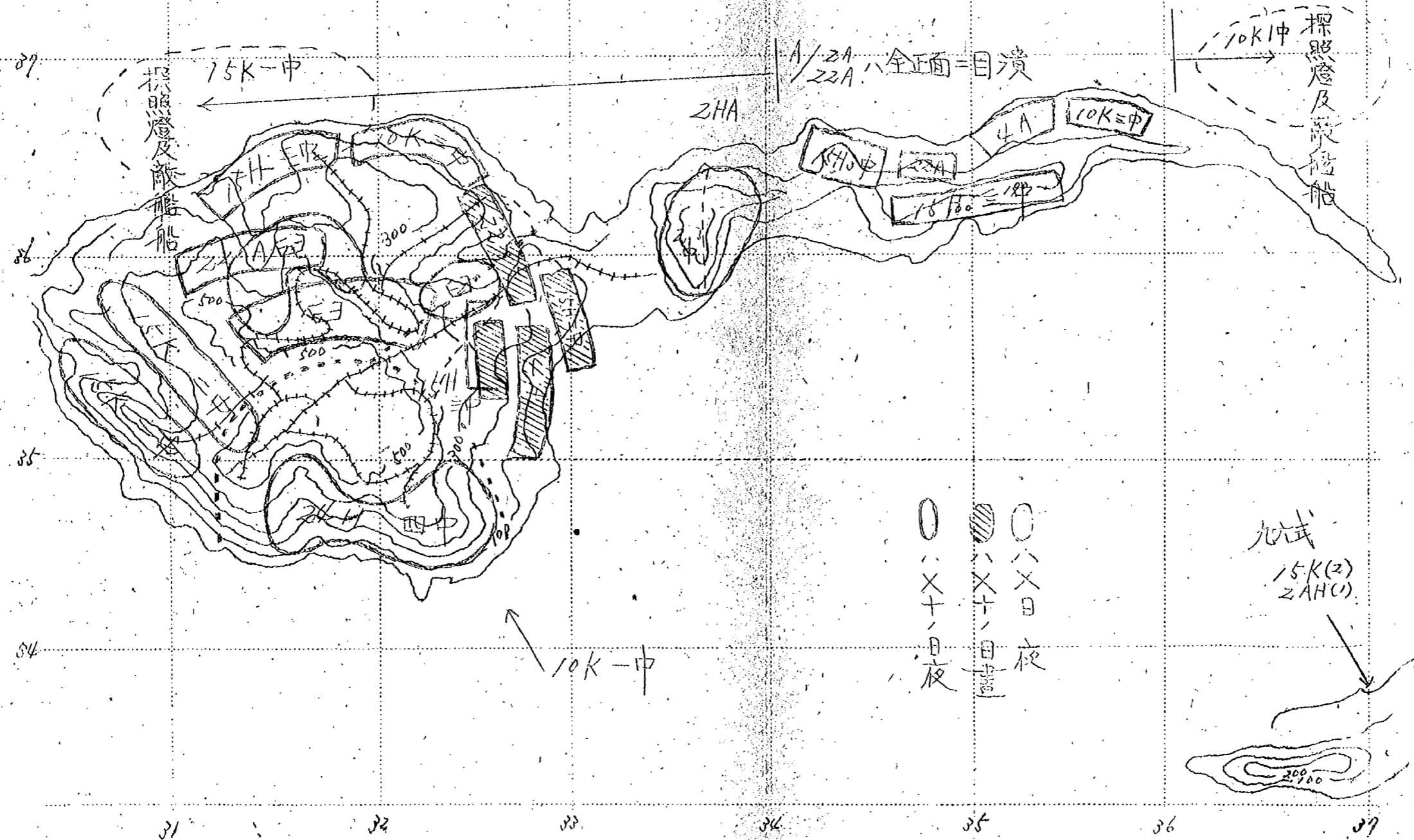
止ス此ノ間十五加二十四榴等ヲ以テ500ノ水平曲線ノ南方及西方ヲ制歴ス

(イ) 乙上陸部隊は海岸ニ發艦セバ逐次全火力ヲ500ノ水平曲線地區及其ノ西方南側ニ集中ス

(ニ) 甲、及乙部隊ニ對スル支援射撃ハ其ノ相互ノ連繫ヲ適切ナラシム上陸部隊ニハ拂曉ニ於ケル第一線標示ヲ要求ス

(ハ) 使用豫定彈藥ノ平均概ネ一、五基数(一A一基数)十二甲乙上陸部隊ニ對スル上陸支援射撃ノ大要左圖ノ如シ

甲乙上陸戦闘支援射撃大要要圖



1018